

# 第 1 章 奈良県がん対策推進計画について

第  
1  
章

第  
2  
章

第  
3  
章

第  
4  
章

資  
料

## 1 はじめに

がんは日本人の死因の第1位であり、人口動態統計によると、令和4（2022）年には年間約39万人ががんで死亡しています。また、日本人が生涯のうちにがんと診断される確率は2人に1人となっており<sup>※1</sup>、依然として、がんは県民の生命と健康にとって重大な問題です。一方で、早期に発見し治療すれば5年相対生存率<sup>※2</sup>が高いがんも多くあり、ワクチン接種や抗ウイルス治療により予防できるがんもあることから、県民一人ひとりが、がんに関する正しい知識を持つことが必要です。

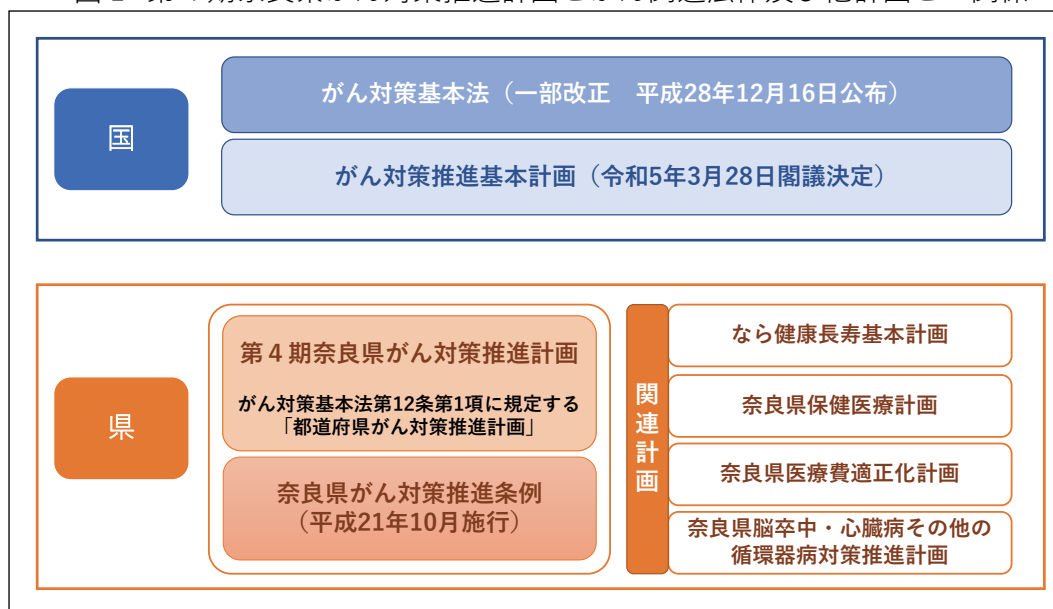
これまで県では、平成21（2009）年10月に「奈良県がん対策推進条例」を施行し、同年11月には「奈良県がん対策推進計画」を、平成25（2013）年3月に「第2期奈良県がん対策推進計画」を、平成30（2018）年3月には「第3期奈良県がん対策推進計画」を策定し、予防をはじめとし、医療提供体制・相談支援体制の構築、緩和ケアの充実等、総合的ながん対策を推進してきました。第4期計画においては、これまで培ってきた関係機関との連携を一層強化し、県民や患者・家族の視点に立ち、適切な情報や医療、相談の機会等が提供できるよう取り組んでいくこととしています。

## 2 計画の位置づけ

本計画は、がん対策基本法第12条第1項に規定する「都道府県がん対策推進計画」にあたり、平成21（2009）年に公布・施行した奈良県がん対策推進条例の趣旨を踏まえ策定しています。

また、健康寿命日本一の達成をめざす「なら健康長寿基本計画」、「奈良県医療費適正化計画」等の関連計画とも連携し、調和を図りながら推進します。なお、本計画は、「奈良県保健医療計画」の一部に位置づけられており、がん分野の詳細は、本計画によることとしています（図1）。

図1 第4期奈良県がん対策推進計画とがん関連法律及び他計画との関係



※1 がん情報サービスがん統計（2019年データに基づく）。

5年相対生存率<sup>※2</sup>…あるがんと診断された場合に、治療でどのくらい生命を救えるかを示す指標。あるがんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、日本人全体で5年後に生存している人の割合に比べてどのくらい低いかで表す。100%に近いほど治療で生命を救えるがん、0%に近いほど治療で生命を救い難いがんであることを意味する。

### 3 計画期間

計画期間は、令和6（2024）年度から令和11（2029）年度までの6年間とします。ただし、計画期間内であっても、必要に応じて計画を見直します。

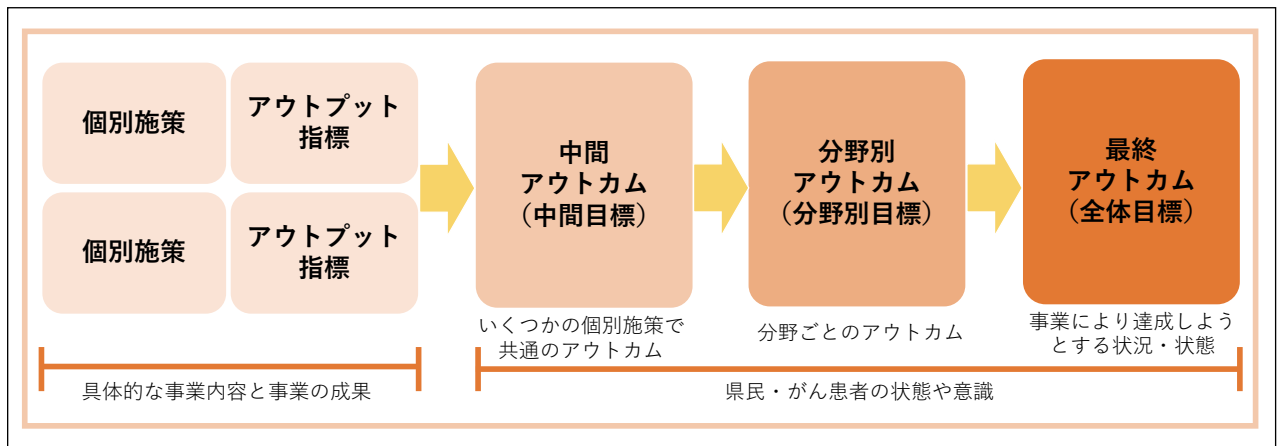
### 4 計画の基本的な考え方

本計画はロジックモデルを活用して策定しています。

ロジックモデルは、はじめに最終アウトカム（全体目標）を決定し、その上で最終的に達成したい状況を実現するためには何が必要か、という視点で分野別アウトカム（分野別目標）、中間アウトカム（中間目標）、個別施策の順に決定していきます。最終アウトカム（全体目標）を達成するまでの取組の全体像を体系的に整理、把握できるメリットがあります。

このような考え方にに基づき、本計画の分野別施策の構成は、各分野の現状と課題を記載した後、全体目標を達成するための分野別目標、中間目標、個別施策の順に記載しています。

図2 ロジックモデルの構造



### 5 計画の進行管理

より充実したがん対策の実現を図るためには、政策循環（PDCA）のサイクルにより、計画の達成度を評価・分析し、計画の修正や次期計画の策定に反映させ、継続的な改善を進める必要があります。

奈良県がん対策推進協議会において、毎年、施策の実施状況について確認を行うとともに、本計画に基づくがん対策の進捗状況について、3年後を目途に中間評価を行います。その際、個々の取り組むべき施策が個別目標の達成に向けてどれだけの効果をもたらしているか、また、施策全体として効果を発揮しているかという観点から評価を行い、その評価結果を踏まえ、課題を抽出し、必要に応じて施策等へ反映します。さらに、この計画の進捗状況や協議会での検討内容については、県ホームページにも掲載するなど、県民にも広報します。

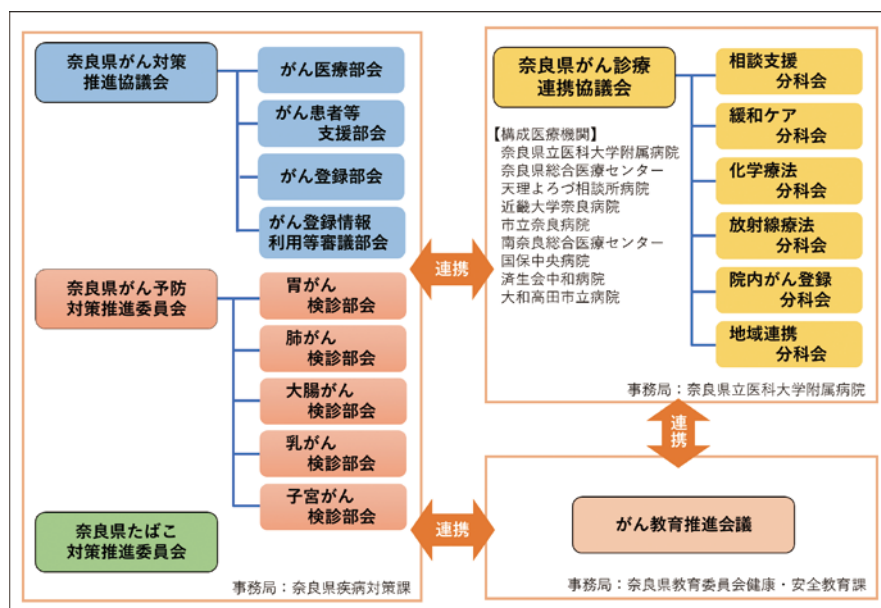
なお、国では、がん対策の評価に資する医療やサービスの質も含め、分かりやすい指標の策定について、引き続き必要な検討を行うとしており、その動向に注視し、必要な場合、指標等の見直しを行います。

## 6 計画の推進体制

奈良県のがん対策及び進捗評価は、「奈良県がん対策推進協議会」、「奈良県がん予防対策推進委員会」、「奈良県たばこ対策推進委員会」の3つの審議会に加え、がん対策の基盤整備として重要とされる「がん教育」は、教育委員会が所管する「がん教育推進会議」で審議しています。

また、がんの診療の拠点となる9病院が協働し、奈良県立医科大学附属病院に「奈良県がん診療連携協議会」を設置しており、行政と各医療機関が有機的に連携・協働しながら、奈良県のがん対策を推進しています（図3）。

図3 県とがん診療連携拠点病院との連携体制



## 7 第4期奈良県がん対策推進計画の概要

本計画は、3つの全体目標を達成するため、7分野とこれらを支える基盤整備を加えた8分野で構成しています。計画の概要は次ページに示すとおりです。

# 第4期 奈良県がん対策推進計画 概要

## 基本理念 がんにならない、がんになっても安心できる 奈良県

### 全体目標

- 1 県民ががんにならない、がんで亡くならない (がんで亡くならない県、日本一)
- 2 すべてのがん患者とその家族の苦痛が軽減され、安心、納得のいく医療を受け、療養生活を送ることができる
- 3 すべての県民ががんを正しく知り、がんと向き合い、地域共生社会の中で自分らしく生きられる

### 分野別施策

#### がん予防

<めざす姿>  
がん罹患率が減少している  
がんに関する正しい知識を持っている

- ・たばこ対策の充実
- ・健康的な生活習慣の普及
- ・感染症予防の充実

#### がん医療の充実

<めざす姿>  
がん患者が安全かつ安心な質の高い医療を受けられる  
がん患者が納得した治療を選択できている

- ・がん医療提供体制の充実・がん医療の質の向上 (小児・AYA世代や高齢者等のがん医療の連携促進)
- ・患者目線でのがん診療情報の提供

#### 相談支援及び情報提供

<めざす姿>  
がん患者の不安や悩みが相談支援により軽減されている

- ・相談支援機能の強化 (小児・AYA世代、高齢者)
- ・患者目線での情報提供の充実

#### がんの早期発見

<めざす姿>  
がんが早期の段階で発見されている  
がんが早期の段階で診断されている

- ・がん検診の受診促進
- ・がん検診精度管理の充実

#### がんと診断された時からの緩和ケア

<めざす姿>  
がん患者の身体的、精神的、社会的苦痛が軽減されている

- ・緩和ケア提供体制の充実
- ・緩和ケアの理解促進と情報提供

#### がん患者等の社会的な問題への対策

<めざす姿>  
がん患者の抱える社会的苦痛が軽減されている

- ・がん患者の治療と仕事や学業の両立支援体制の整備
- ・その他ライフステージに応じた社会的な問題 (アピアランスケア・妊孕性温存療法等) への支援

#### 地域連携

<めざす姿>  
がん患者が居住する地域にかかわらず質の高い医療を受け、望む場所で療養生活を送ることができる

- ・拠点病院等・支援病院の地域連携体制の充実
- ・在宅緩和ケア提供体制の整備及び充実
- ・在宅療養生活に関する情報提供

#### これらを支える基盤整備

#### がん登録

<めざす姿>  
がん登録データの精度が向上し、データが有効活用されている  
地域でがん登録データが活用しやすい体制が整備されている  
がん登録に基づいた適切な情報を得ることができている

- ・がん登録の精度向上
- ・がん登録データ等を活用したがん対策の検討・実施
- ・データを活用した情報提供等

#### がん教育・知識の普及啓発

<めざす姿>  
がんに関する知識が向上する

- ・中学校・高等学校におけるがん教育の充実・推進
- ・小学校 (高学年) におけるがん教育の推進
- ・がん対策全般に関する普及啓発の推進